

第36回 廃棄物資源循環学会研究発表会の開催にあたって

第36回 廃棄物資源循環学会研究発表会
実行委員会委員長
名古屋大学 平山 修久

第36回廃棄物資源循環学会研究発表会を東海・北陸支部により愛知県名古屋市で開催するにあたり、実行委員会を代表して皆様のご参加を心より歓迎申し上げます。東海北陸地域では、これまで4回の研究発表会を開催してきました。名古屋市での開催は第9回（1998年）、第20回（2009年）、第29回（2018年）に続く4回目となります。今大会は、前回大会に引き続き、平常時の発表会形式により開催する研究発表会となります。今回の研究発表会の会場は、特別プログラムの名古屋大学豊田講堂とともに、名古屋大学東山キャンパスの中心に位置する地下鉄名城線名古屋大学駅に隣接したIB電子情報館と、2020年、2023年に竣工したオークマ工作機械工学館、EI創発工学館と、大変利便性が良い会場となっています。

2025年は戦後80年にあたり、この地域においては、1945年三河地震から80年、伊勢湾台風から66年、2000年東海豪雨から25年であり、2024年能登半島地震から20ヶ月となります。2025年3月には、新たな南海トラフ地震の被害想定が示され、この10年間、鋭意、防災対策が進められてきましたが、それでも不十分であることが明らかになりました。複合連淹災害となった2024年1月能登半島地震、2024年9月能登半島豪雨からの復旧復興を支援するとともに、来る国難災害に備えて経験を学ぶことが大切です。

20年前の2005年には、自然の叡知をテーマとし、121カ国4国際機関が参加した愛・地球博（2005年日本国際博覧会）が愛知県で開催されました。人と自然との共存を目指し、サブテーマのひとつに循環型社会が掲げられました。約2204万人が参加し、この20年間の資源循環型社会構築の取り組みにつながっています。愛知県は、我が国の製造品出荷額等330兆円のうち約14%の約48兆円を占めるものづくりの一大拠点であることから、今回の大会では、「自然の叡知、ものづくりから持続可能な資源循環社会を共創する」というテーマを掲げさせていただきました。自然の叡知やものづくりという視点から、自然災害、気候変動や人口減少社会などの外的環境要因に対しても持続可能な資源循環社会をどのように実現するのかについて、研究者、行政、民間、市民で共有し、連携する場となることを目指してさまざまな企画を致しました。

名古屋大学のシンボルである豊田講堂で実施する特別プログラムでは、石川県珠洲市副市長の金田直之氏から特別講演「能登半島地震から20ヶ月の現在地」、元愛知県副知事の稲垣隆司岐阜薬科大学名誉教授から特別講演「愛知万博における環境保全対策とその成果の継承・発展」を企画しています。意見交換会では、なごやめしなどの地元の新鮮な素材を使った食事と飲物とともに、石川県能登地方の飲物を楽しみながら、有益な意見交換会となるよう準備しております。

今回の研究発表会が皆様にとって有意義な場となりますことを実行委員一同祈念して、多くの会員、関係各位のご参加を心よりお願い申し上げます。